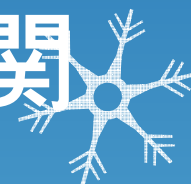
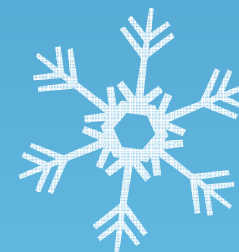




災害時における要援護者支援に関 わるボランティア活動

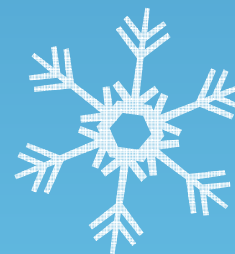


山崎美貴子



要援護者に関わるボランティア

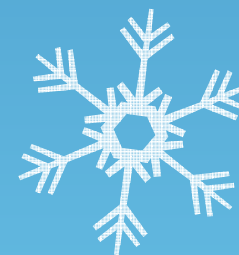
阪神淡路大震災（生き埋め、閉じ込め）東日本大震災の場合（津波）の場合、自力脱出、家族のよる救出、次いで地域住民。活動するボランティアは地域の支援者でありながら、被災者でもあり、地域住民でもあった人人であった。この強みを生かし命を救った。災害時は地域の自助、共助の力が極めて重要。インフォーマルフォーマルな繋がりが大切。



要援護者の場合

- 早急に自力で避難困難な人、地域とつながりがなく、社会的に孤立状態にあり、周りの人はその人の存在さえ認知していない人々、
- 周囲に人びとは存在は認知していても、情報が届きにくい人
- 危険回避、避難行動、避難生活、復旧、復興活動を自力では行えず、他者より援護が必要な人びと
- 乳幼児、要介護者、重篤な病人を抱えており、自分だけ避難できない状態にあり支援が必要な人々
- 理解判断がむづかしい人々
- 旅行者、観光客等土地勘なく、情報なく判断できない人々

発災直後、救命救急期、生活支援、生活
生活再建、復旧、復興期とそれぞれに
ボランティア活動の内容、役割が異なる



発災時の活動

- 災害ボランティアセンターの立ち上げと要援護者支援窓口を開く、福祉避難所の開設、避難所での要援護者支援、在宅要援護者の発見、ニーズの把握

必要物資の調達と配達手段の確保

- 医療器具、薬品、ミルク、おむつ、必要な食糧、水、衣類などを要援護者に届ける配送の手段の確保と支援

避難所生活支援

- 避難所の生活が要援護者にとって厳しい環境になっている場合が多い。きめ細やかな環境整備、ニーズ把握が必要

要援護者と支援ボランティアのマッチング

- 地域外の外部からボランティアが被災地に集まり始めると活動は避難所内の支援、要援護者の在宅支援、施設、病院等活動先が分かれ始める。要援護者に関する情報の整理・発信・マッチング、V/coの役割が重要

救命・救急期から生活支援期へ



- 避難所から慣れない仮設住宅、自宅など移動支援、引っ越し支援、買い物、病院付添射、自宅片付け、心のケアが
- 一番ボランティア活動が集中する時期で様々なプログラムが展開する



仮設住宅、みなし仮設での要援護者支援

- 仮設での生活支援の時期は要援護者の生活は慣れない環境と地域から切り離され、孤立しやすく、周りに支援の輪の構築が必要。生活支援相談員、民生委員等と連携して支援する必要

- 要援護者の主体性、デマンドを十分生かし、災害によりさらに困難、不利な状況を克服する支援が求められる
- 環境の変化に耐えられない状況を見逃さない個別支援を丁寧にする必要
- 専門職との連携、ネットワークが重要
- 日ごろから地域での要援護者と顔の見える関係づくり、支援システムの構築支援
- 要援護者は地域で日ごろから孤立しやすいことが多いことを十分認識して、支援力と受援力を共に高めることが求められる

